

大阪府池田市

圏域経営を意識した政策提言にむけて

Ⅱ いけだウオンバット塾を開催、

近隣都市職員や住民と意見交換Ⅱ

池田市人材育成推進参与 上浦善信

一．はじめに

池田市は、大阪北部に位置し、古くから街道が交わる交通の要衝として栄え、近年においては、大阪国際空港や、高速道路をはじめ複数の幹線道路が整備されたため利便性の高い住宅都市としての姿をもつ自然豊かな十万都市です。

年間一五〇〇万人が利用する大阪国際空港の北ターミナルは、池田市にあります。世界初のインスタントラーメン「チキンラーメン」誕生の地としても注目されており、平成二十一年に開館された「インスタントラーメン発明記念館」には、年間

七五万人の観光客が訪れています。

また、「自分たちのまちは、自分たちでつくる」を合言葉で始まった全国初、池田市発の地域分権制度（小学校区ごとに住民が予算編成要望権をもち地域内の課題抽出・解決を検討する制度）があり、それをささえるサポート職員は、地域独特の文化や風土・風習を学ぶ絶好の機会となっています。

二．人材育成基本方針の改定

平成二六年五月の地方公務員法改正をうけて、人材育成基本方針の定める「求める職員像」と人事評価の「評価項目」の連動が必要となること、以前策定した平成一五年度からおよそ一〇年が経過し、本市を取り巻く内外の環境が大きく変化したため、人材育成基本方針を見直すこととなりました。

内外の環境の変化

- ① 人事評価制度の導入義務付け
  - ② 雇用と年金の接続による再任用職員の増
  - ③ 職員数の減少と増加する臨時・非常勤職員
  - ④ 職員の年齢構成の変化（今後五年間で八〇名以上の管理・監督職が退職）
- そこで、今後の一〇年間を見据えて、本市が取り組むべき人材育成・人材確保の取組について、必要な視点を入れるべく、人材育成基本方針を平成二七年二月に改定いたしました。

改定にあたっては、人材育成基本方針改定プロジェクトに参加するメンバーを庁内公募で集め、職員アンケートの分析や、研究会に招聘したゲストスピーカーから得た示唆・ヒントなどを通じて、議論を重ねた結果、地域住民とともに行政を進める重要な担い手となる意欲と能力を兼ね備えた人材の確保と育成のため、「市民とともに、地域の課題を解決し、未来を創る職員」を目指す職員像に設定し、職員が共通して持つべき基本姿勢

や意識として示しました。

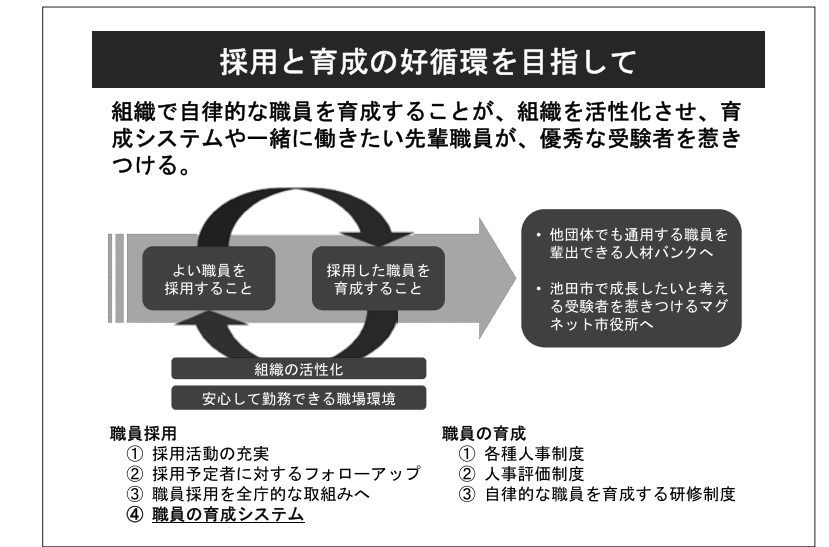
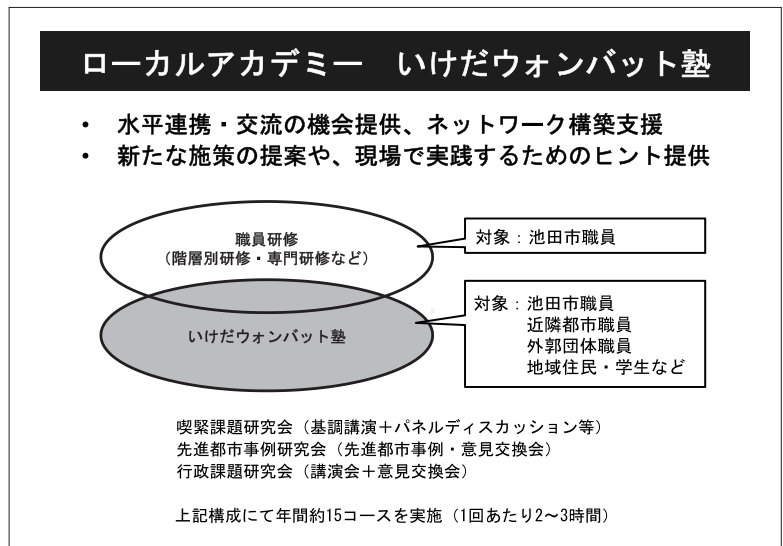
職員として「求める人材」

- 1. 全職員、採用候補者
  - ・ 池田市の未来を考え、行動し、信頼される人材
  - ・ 自ら考え、調査し、複数の選択肢を提案、実践できる人材
  - ・ 首長や部長など幹部職員を目指す人材
  - ・ 専門性を高め、民間企業や他団体でも活躍できる人材
- 2. 管理・監督職にある職員
  - ・ 部下に権限を委譲しながら、責任を負うことができる人材
- 3. 再任用職員
  - ・ 実務を担いながら、責任者（係長級）にアドバイスできる人材
- 4. 任期付短時間勤務職員
  - ・ 住民サービス拡充の重要な担い手となる人材
- 5. 臨時・非常勤職員
  - ・ 基本的な知識、自覚を持ち、行動できる専門的業務の担い手となる人材

体の職員や地域住民などさまざまなネットワークを生かすことができる職員や圏域経営を意識して、地域の課題解決に向けて、住民とともに、複数の解決策を提案・提言、実践できる職員の育成が必要です。そのため誕生したのが、ローカルアカデミー「いけだウォンバット塾」です。

四：「いけだウォンバット塾」

これは、従来の職員研修に加え、近隣都市職員や、テーマによっては住民にも受講枠を設けたセミナーで、先進自治体を招いての事例研究や喫緊の行政課題などについての講演会などを実施し、講演終了後、講師や参加者同士が、活発に意見交換することにより、所属間同士の水平連携や市町村職員のネットワーク構築、そして、新たな施策や方針を見出していくヒントにすることが目的です。そして、他都市からの参加者には、観光パンフを配布するなど、池田を知っていただく機会の拡大を図っています。



三：方針の目指すもの

地方分権の進展に伴い、基礎自治体である市町村の広域化、独自化、高度化や多様化が進む中で、池田市職員として採用された者が定年まで勤め上げるといふこれまでの職業人生とは異なり、池田市で得た能力を活かして、「他の地方公共団体や民間企業を新たな活躍場所に求めるようなキャリアプランを考える職員の輩出」を目指します。

また、臨時・非常勤職員の増加、年齢構成の大きな変化（若返り）の中で、新規採用職員と概ね三五歳までの職員を人材育成の重点ターゲットとして、徹底的な育成に努め、一〇年後には、これから育成期間を経た職員が後輩職員を育成し、その姿を見て、より優秀な人材が集まるといふ、「採用と育成の好循環」を達成することが目的です。

そのためには、広域連携の取組などを通じた連携・協力に基づいた行政経営を意識し、他の自治



講師を囲んで他市職員と意見交換

### 「なぜ、ウォンバット？」

大阪・池田には、広さ3,000平方メートル、園内一周約5分の「世界一♥のある動物園」こと五月山動物園があります。日本では、非常に珍しい「ウォンバット」がおり、生息地のオーストラリア以外で二世が誕生したことで有名な小さくてもキラッと光る動物園です。いけだウォンバット塾は、あなたがキラッと光ることを応援します。

この事業の効果ですが、「対象者の拡大」そして「講師を囲んでの意見交換」では、講演で聞けなかった「講師によるここだけの話」や他市の状況・情報・課題、についても知ることができ、講師にとっても自治体現場の状況を聞く機会となっているとの評価を得ているとともに、本市の職員にとりましては、

- ① 政策策定過程の検証や新規政策立案の参考
- ② 近隣市町村職員同士のネットワークの構築
- ③ 地域住民、学生の協働意識の醸成や推進
- ④ 行政PR及び観光PR

など、メリット多きセミナーとなっています。今後は、この取組をさらに充実し、より多くの地域住民等の参加を促し、自治体職員、地域住民、学生とともに、政策・施策を考える機会を拡大し、その成果をより多くの自治体職員等が、政策策定過程の検証や政策立案の参考として活用できるように講演録などの作成を検討するとともに、ホームページでも発信していく予定です。

### 「いけだウォンバット塾」実施実績（一部抜粋）

#### 1. 喫緊課題研究会（基調講演 + パネルディスカッション等）

- 「輝く女性を応援。女性が輝くよう応援」＝キャリアデザインを考える＝  
基調講演・キャリアトークインタビュー（自治体女性職員3名）
- 「住民協働のまちづくり」 ※住民参加  
基調講演・コミュニティ推進協議会と意見交換会
- 「災害から市民を守るために 復興へのバトン 震災に備える」 ※住民参加  
基調講演・東日本大震災被災市への人的支援報告・クロスロードゲーム

#### 2. 事例研究会（基調講演 + 先進事例・意見交換会）

- 「子育て支援政策事例研究会」  
基調講演・大阪市の事例・意見交換会
- 「環境政策事例研究会」 ※住民参加  
基調講演・池田市・西宮市・気仙沼市の事例報告・意見交換会
- 「シティプロモーション事例研究会」 ※住民参加  
基調講演・尼崎市の事例・意見交換会

#### 3. 行政課題研究会（基調講演 + 意見交換会）

- 債権管理セミナー「歳入を確保する」＝公債権・私債権＝
- マイナンバー制度 そここが知りたい！
- 児童虐待への対応と子育て支援
- 行政へのクレーム、その考え方
- 人事評価制度の意義と活用 ＝評価者のもつ役割＝
- 不調のサインを見逃すな ＝メンタルヘルス・ラインケア＝
- 保育現場のリスクマネジメント
- 新地方公会計制度導入の背景と意義
- 自治体のリスクマネジメント ＝事例からみる教訓＝
- 委託窓口から学ぶ接遇（池田市福祉窓口委託業者教育担当）
- 分権時代の自治体職員 ＝キャリアデザインを考える＝
- 災害から市民を守る ＝巨大地震に備えるシニア社会＝ ※住民参加
- 地域の魅力を世界へ発信 ＝インバウンド時代がやってきた＝ ※住民参加
- 地域創生と観光事業創造 ＝京都観光戦略から学ぶ＝ ※住民参加
- 住民協働のまちづくり ＝パートナーシップの特性＝ ※住民参加

## 五. おわりに

地方分権が実践の段階に入った今、自治体は政策的自立が求められ、地域特性を踏まえた政策を自力で開発し、実行後は、住民に対して説明責任を果たさなければなりません。そのため、自前の政策について深く研究していく必要があります。

自治体が、選択肢としての政策を蓄積する方法としては、職員が一年近くかけて「政策策定研究」に取り組み、政策提言を行うことが挙げられます。これに指導助言者をつけることや、関連する部局の中堅職員を研究チームに送り込むなどの工夫で、基礎データの収集や状況把握に対して時間が短縮されるとともに、実現可能性の検証がスムーズに図ることができ研究を成功に導くことができます。

また、政策を蓄積するうえで、より効果的な手法としては、課長級職員と若手職員三・四名が一組となり二年程度を費やし、政策策定研究を行う

ことが挙げられますが、さらなる人材の活用を考え、再任用職員（元課長級以上）と若手職員が一組となつて、再任用職員のキャリアを活かせるテーマについて調査・研究を行うことも検討しています。定年退職という区切りが与える意識変容と今までとは異なる立場で熟年者のもつ多角的視野で行政を見つめなおし、より市民に近い立場での政策提言が期待できます。

このような方法で市政の課題について研究し、基礎データと政策を蓄積することは、本市にとつて大きな武器となり、一定期間研究活動に携わった者が、政策マンとして育つことは組織にとって大きな財産となります。

今後、「いけだウォンバット塾」を研究の課題と連携させ、自前の政策について研究するプロセス①課題の発見・整理②住民ニーズの把握③政策の立案と選択④実現可能性の検討など⑤の参考となるようなテーマの選定や講師の招聘をしていきたいと考えています。